師走の益城路を快走

第１回益城町ロードレース大会

12 月 27 日、町総合運動公園陸上競技場をスタート・ゴールとした第１回益城町ロードレース大会が開催されました。

これは、町陸上競技協会の主催で、長距離選手の育成と底辺拡大および青少年の健全育成を目的とし、初めて行われた大会です。

この日の天候は快晴で、午前 10 時のスタート時の気温はマイナス１ ℃。冷たい北風の中、男子４部門（小学生２㎞、中学生５㎞、高校生 10 ㎞、一般 10 ㎞）、女子4部門（小学生2㎞、中学生3㎞、高校生5㎞、一般5㎞）に町内外から344人のランナーがエントリーし、健脚が競われました。

また、沿道では、白い息を吐きながら、走るランナーに大きな拍手と温かい声援が送られました。

一斉に競技場をスタートする選手たち

献血 600 回の偉業を達成

安部弘秀（あべひろひで）さん（市ノ後団地）

12 月 12 日、50 年間にわたり、献血 600 回という偉業を達成された安部弘秀さんに町献血推進協議会会長の住永町長から表彰状が贈られました。

安部さんは、18 歳の時に自衛隊員として赴任していた長崎で、原爆病院からの依頼で献血したのをきっかけに、以後 50 年間、毎月献血を続けてこられ、11 月 25 日に 600 回目を迎えられました。

安部さんは、若いころからスポーツマンで、バレーボールに親しみ、常に自分自身の健康管理には十分注意してこられました。現在でも早朝の運動と週２回のバウンドテニスは欠かさないそうです。「これまで健康に恵まれ、順調に献血できたことに感謝しています。

住永町長から表彰状を受ける安部さん

献血可能な 69 歳まであと１年ですが、できるだけ献血したいです」と笑顔で語られました。

ましき宝箱
活動だより

※飯田山登山口に『竹の杖』を寄贈・設置※

みんなで楽しく登山し、たくさんの思い出を作りました。

飯田山登山口に設置された「竹の杖」

素晴らしい益城町の歴史・文化・伝統と豊かで美しい自然を、多くの町民に知ってほしいと活動を続けているボランティアグループ「ましき宝箱」（会長：森永博之さん・安永２町内）が、飯田山登山者に使ってもらおうと、自作の竹の杖 50 本を新屋敷の溜池横の登山道入り口に設置しました。

「ましき宝箱」では、春と秋の２回、町民に呼びかけ飯田山登山を実施し、今回も広安西小学校５年生と保護者を含め、３歳の幼児から 70 代の女性までの 30 数名が、さっそくこの杖を使って秋も深まった飯田山に登りました。

この日 12 月７日は、この冬一番の冷え込みにないましたが、雲一つない晴天に恵まれ、冬木立の落ち葉を踏みしめながらグループの案内で、飯田山の自然観察や山頂の常楽寺についての勉強会、また町内に関するクイズ大会などで楽しい１日を過ごしました。